

福岡県八女郡下の3森林組合による素材の共同販売について(Ⅳ)

一 買方組合の実態と問題点一

九州大学農学部 村瀬 房之助

1. まえがき

第Ⅲ報は昭和60年4月の日本林学会大会で発表している。今回は、矢部村、黒木町、星野村の3組合によって設立された八女木材共販所の買方組合について分析した。素材共販の進展も、買方組合の組合員がどれほど共販所から素材を仕入れるかにかかっている。そこで、①買方組合に所属する組合員の地域的分布、②組合員の年間仕入状況、③組合員の経営実態、を中心に分析をおこない、買方組合に関する問題点と共販所の在り方について言及する。

2. 昭和58、59年度の共販実績

買方組合について考察する前に、58、59年度の実績をのべておく。58年度の総売上材積は22,270 m³、売上金額は4億8,235万円、平均単価21,658円である。森林組合別に分けると、矢部村8,215 m³、1億7,154万円、黒木町7,137 m³、1億4,820万円、星野村4,884 m³、1億1,463万円、一般2,034 m³、4,801万円となっている。

59年度は、総売上材積26,854 m³、売上金額5億2,866万円、平均単価19,686円、である。そのうち矢部村9,018 m³、1億7,129万円、黒木町9,194 m³、1億503万円、星野村5,694 m³、1億2,041万円、一般2,949 m³、6,194万円、となっている。59年度は前年より4,584 m³、4,631万円の増加である。しかし、60年度は減少の見込みである。両年の売上内容の違いをみると、58年度は電柱材の売上が全体で1,883 m³、5,608万円みられるが、59年度は全くない。杭木の売上が58年度の7 m³から59年度は28 m³と増加している。

3. 買方組合員の地域的分布

昭和60年4月1日現在の組合員の所在は、①八女西部地区(八女市、筑後市、広川町、立花町)35人、②八女東部地区(矢部村、黒木町、星野村、上陽町)25人、③田主丸・吉井地区17人、④浮羽地区(浮羽町、杷木町)21人、⑤その他(日田、久留米、甘木、鳥栖、大川、柳川など)39人、に分けられる。合計

は137人に達するが、4月以降倒産などがあって131人に減少している。したがって、八女地区が60人で全体の46%を占めている。業種としては製材業が主であるが、木材業や建設業、不動産業を兼ねているものもある。

4. 買方組合員の共販所における仕入状況

昭和53年度から58年度までの買方組合員の仕入高上位十傑は、表-1のとおりである。この表からいえることは、①1人当たり仕入高の最高は、材積で58年の1,695 m³、金額で54年の4,897万円である、②53年の上位十傑のうち4人で58年にも10位以内に存在している。換言すると、短期間では仕入上位の組合員は大きくは変化していないこと、を指摘することができる。さらに、58年度でみると、仕入上位十傑の総材積は約9,657 m³で年間共販実績22,270 m³の約43.4%、仕入金額は2億1,127万円で、年間共販売上4億8,235万円の43.8%を占めている。

5. 買方組合員の経営実態

買方組合員131人のうち54人は1億円以上の販売実績をもち、そのうち10人が3億円以上の販売高を有している。そこで、58年度の上位十傑には入っていないが筑後市のW社に焦点をあて、共販所との関連をみながら、以下経営内容をみていく。

W社は、製材業を中心にして木材業、建売り住宅建設業も兼ねている。年間木材取扱高のうち素材仕入が40%、製品が60%に分けられる。素材は年間5,000万円の仕入金額に達している。これに対し、売上金額は約1.5億円とみられる。5~6年前の53、54年頃は製材業より木材業が主であったが、売上高は3億円に達していた。現在の販売先は筑後市が80%を占め、あとは久留米市などとなっている。

W社の八女木材共販所からの素材仕入量は58年度で613 m³、1,381万円、であった。共販所から仕入れる素材は間伐材であるため、個人住宅用の柱、タルキ、モヤ、ケタ、土台角などの構造材を目的とする。それらを、共販所以外からの大径良質材を製材した、ある

いは製品で仕入れたナゲシ、カモイなどの化粧材とともに、系列下の工務店に販売するのである。また、自ら年間5～6戸の住宅建売りを行なう。

6. 買方組合の問題点と共販所の在り方

買方組合は、福岡県登録の木材業あるいは製材業者であることを組合員の要件とする。昭和59年6月7日現在、福岡県登録の木材・製材業、木材業、製材業者は、①福岡農林事務所管内317、②甘木農林事務所管内89、③八幡農林事務所管内217、④飯塚農林事務所管内88、⑤筑後農林事務所管内416、⑥行橋農林事務所管内120、総計1,159に達する。八女木材共販所の買方組合員は131人であるので、県全体のわずか11.3%にすぎない。さらに、58年度において、年間売上材積22,270 m³のうち80.7%にあたる17,980 m³が40人の組合員で購入されている。このことから、共販所に

出荷された材は、地元の比較的少人数の木材・製材業者に購入される傾向にある。さらに、共販所に出荷される材は間伐材が主で買方組合の大径主伐材の需要には応ずることができないことから、60年秋には八女地区以外の地域からの主伐材も含めて特別記念市日を受けて販売した。しかし、共販所としては、矢部村、黒木町、星野村の主伐材が、製材業者や素材生産業者をおし浮羽地区等へ流出している状況にどう対応していくかが課題といえる。この問題は、共販所だけで解決できることではないので、矢部村、黒木町、星野村の3森林組合が主体となって、林道、作業道の密度を高めるなど、出材費の低減を図るとともに、共販所をおして販売することによって利益がより組合員に還元される措置を3組合が実現していくことが肝要である。その場合、現在のような、地元中心の需要者から、福岡県内外に販路拡大していくことが必要であろう。

表-1 買方組合員の年間仕入高上位十傑の推移

年度	53		54		55		56		57		58							
	組合員	仕入材積	仕入金額	組合員	仕入材積	仕入金額	組合員	仕入材積	仕入金額	組合員	仕入材積	仕入金額						
1	A	1,083 ^{m³}	3,141	B	1,249 ^{m³}	4,897	B	1,403 ^{m³}	4,874	A	1,282 ^{m³}	3,454	C	1,279 ^{m³}	3,665	Q	1,695 ^{m³}	3,791
2	B	1,078	3,114	A	1,196	4,331	A	1,319	3,697	B	1,239	3,649	E	1,128	2,633	R	1,154	2,419
3	C	891	2,819	K	1,005	3,916	C	998	3,246	C	1,079	4,270	Q	1,104	2,570	C	1,096	2,722
4	D	789	2,547	C	991	3,644	E	930	2,677	P	1,066	1,475	K	817	2,301	E	961	2,184
5	E	721	1,835	E	797	2,927	P	919	1,304	E	1,053	2,843	H	813	1,792	S	882	1,066
6	F	453	1,534	L	479	2,001	K	836	2,738	Q	859	1,901	B	808	2,517	K	865	1,988
7	G	456	1,301	F	475	1,716	I	715	2,134	H	732	1,521	J	752	1,772	H	832	1,637
8	H	435	600	M	438	1,801	O	511	1,540	M	703	2,185	U	737	1,376	B	820	2,048
9	I	350	1,041	H	414	831	M	503	1,866	K	688	1,741	M	734	2,277	T	675	1,494
10	J	348	733	O	393	1,429	F	497	1,440	I	655	1,528	O	643	853	L	675	1,779

注) 共販所資料より作成